



<脱穀作業後、「南中ソーラン」の踊りを披露>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	字遊字感「時間の共有」	8
Monthly Repo ならやま	2	海外ボランティア活動体験記ー4	9
里山の今（里山・エコ）	3	Galleryならやま	10
芋掘りイベント・レポ	4	行事案内ー1	11
月例研修会（みたらい溪谷）・レポ	5	行事案内ー2	12
佐保川小学校校庭自然観察教室レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
私のふるさと	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

秋も深まり、ならやまの木々も緑一色から黄葉や紅葉に彩られてとても美しい。年初に植樹したヤマモミジはまだ幼く、竹の添え木に寄りそわれながらもきれいな彩りを加えてくれている(ぜひとも送られてくるPDF会報誌を開いてカラーで見てほしい)。このヤマモミジが大きく成長し、ならやまになくってはならない彩りになるのが楽しみだ。その姿を見るのは次世代の会員かもしれない。何とかこの美しい景色を残さなければ。



コロナウィルスは形を変えながらまたぞろ活動し始め、インフルエンザも流行が懸念される。一方、コロナの治療薬も出だした。心配ばかりしていても仕方がない。今年もあと1か月、コロナや酷暑に悩まされながらも、1年間みんなで活動できたことを喜び、感謝して終われるようにしたいものだ。

12月の活動特記事項

12月8日(木): 芋煮会

12月22日(木): 協働活動(アダプトプログラム)

12月29日(木): 年末最終活動日(迎春準備、活動は午前中のみ)

12月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、チップ処理、薪割り、迎春準備 ユート: アカマツの森でのマツの間伐整備
エコファーム	芋煮会準備と運営、各種野菜収穫・施肥、里芋掘り、ゴボー掘り 畑整備(ナス跡、里芋跡、コボー跡)、ぼかし肥料作り
景観	整備: 佐保自然の森竹林整備、養蜂巣箱および周辺の整備 ビオ: 西池での水路・木道整備、水生生物調査 花: 山野草園、自転車道沿い花壇の草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、樹木銘板取付け トイレ周囲柵の撤去と補修・生垣植樹(キンモクセイ)
果樹	ブルーベリーの移植床を製作し移植 コンポスト搬出、灌木整備、果樹剪定 枯れた記念樹(柿)の植え替え

活動日: 毎週木曜日 9:00~15:00

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

10月27日(木) 晴れ 72名+3名近大生

佐保台小児童による脱穀。これで6月の田植に始まる稲作体験学習が終了。お礼の気持ちとして児童による「南中ソーラン」が披露された。

里山GはNo.18区画の里山林内整備、草刈り。エコGは佐保台小の脱穀と粃摺り、芋ほりイベントの準備。景観Gは佐保自然の森竹林整備と里山Gとの打合せ。花班は自転車道沿い花壇の草引き。ビオ班は近大生による田貝の生育調査、西池の草刈りなど。パトロールGは観察路2コースのパトロール、A地区の橋の付け替えなど。果樹Gは真砂土の運搬と除草。

10月29日(土) 晴れ 26名+97名(参加者)

佐保台小学校放課後教室の芋掘りイベントを実施。参加人数は過去最多記録となった。



11月3日(木) 晴れ 57名

参加者が少ないのは祝日のせいかな？

10月の各イベントの報告と協力に対するお礼が述べられた。

里山Gは佐保自然の森竹林整備、倒木玉切、薪割りなど。エコGは芋掘り畑の跡片付け、菜の花、小松菜の移植。景観Gは佐保自然の森竹林整備。花班は自転車道沿い花壇のフクロナデシコの移植など。ビオ班は湿地内に水路を掘り、泥上げ。パトロールGは観察路の丸太階段補修、A地区の竹の伐採と橋の作り替えなど。果樹Gは真砂土の運搬と除草などを行う。

11月10日(木) 晴れ 66名

景観Gが中心となって、協働活動として、佐保自然の森の竹林整備を行う。またアダプトプログラムを実施。鈴木さんから奈良学クイズの景品が提供された。

里山Gと景観Gは佐保自然の森竹林整備。エコGは玉葱苗の植付け、落花生、人参などの収穫。花班は協働活動の後、自転車道沿いのムラサキハナナの移植。パトロールGは協働活動、アダプトプログラム、観察路1コースのパトロール。果樹Gは協働活動と実りの森除草。

11月17日(木) 晴れ 72名+近大生3名



県により四阿への通路改善のために約5mの樹脂製溝蓋が設置された。

里山GはNo.18区画の枝葉整理、チップ処理、コナラの伐倒など。エコGは玉葱苗の移植、大根などの収穫。果樹Gは佐保自然の森竹林整備。花班は山野草園の草引き。ビオ班は西池水生生物調査、近大生による田貝の調査、西池北側の法面補修。パトロールGは観察路2コースのパトロール、樹木銘板制作、BC前の溝蓋固定など。果樹Gは梅林のイチジク、こんにゃくのネット除去と移植、実りの森の除草など。



鹿せんべいの自販機



清原 正彦

今年の10月から春日大社などに「鹿せんべいの自動販売機」が設置されたそうです。

理由は、シカの餌が不足しているといった「ニセ情報」で人が食べる食物を大量に持ち込んだり、観光客が与えるパンやお菓子里に混じってビニール袋などの誤飲を防ぐためのPRを兼ねているとのこと。

九州の宮崎と鹿児島県の境に「えびの高原」という風光明媚な地域がありますが、ここでも観光客による野生鹿への餌やりで様々な問題が発生しています。人慣れした鹿が闊歩するようになり、森林の下草を喰いつくし、絶滅危惧種の山野草が激減し自然環境に大きな異変が起きているのです。

誤った野生動物への理解で、都会部でもハトやノラ猫への餌やりの結果近隣に糞尿被害が派生したりもしています。

自然界と人間界のバランスがおかしくなったことで、毎年シカは70万頭、イノシシは60万頭(単純計算で、毎日4千頭の鹿・猪)が捕殺され、それでも農業被害が減らない事態に陥っています。※環境省資料から

野生生物と人間の共存は、単に「可愛いから」とか「可哀そうだから」といった感覚で対応するのは如何なものでしょう。本来は、互いの生存を尊重し、過度に関わらない姿が望ましいのでは。たまにひょっこりタヌキやキツネやシカ、イノシシ出会っても互いに干渉しあわない環境が理想では。

里山保全は、自然界と人間界の境界を形成する大切な役割を担うものだと思っています。



平城山の一年生

岡田 扶美子

2019年の年末で主人の両親から引き継いだお店を閉店する事を決断して、シニア自然大学で自然について少し学ばしてもらおうと思いましたが、それからコロナ時代に入り、なかなかシニア自然大学で学ぶ事は出来ませんでした。

それでもシニア自然大学では、このならやまを教えて頂きつながりを持てた事はとっても大きな第一歩となりました。

エコの皆さんは、こんな事も知らないの?と思うことばかりだったと思いますが、私はエコの皆さんの背中を見ていろんな事を教わりたいと思っています。

そして、それを今お借りしている千早赤坂村の畑で真似をして少しずつ実践したいと思っています。そして何よりもエコの皆さんと休憩しておやつを食べる時がとっても好きです。

身体を動かしてご飯をいただき、美味しい野菜を買う事も出来てうれしい事ばかりです。

来月には還暦を向かえるのに、皆さんから未だ若いと言われるとおかしくなります。

大阪から来る不思議な夫婦ですが主人共々これからもヨロシクお願い致します。



芋掘りイベントレポ
でっかいお芋とれた！！



豊田 治代

「あった！」「でっかいで！」「まだ続いでる！」「取れた！」10月29日絶好の芋ほり日和の中、佐保台小学校児童36名、未就学児16名、保護者39名等、合計97名の方々が参加され我々26名がスタッフとして加わり総勢123名で芋ほりイベントが開催されました。



開会式で佐保台小学校の学習アドバイザーの方も、こんなに大勢の参加は初めてだとおっしゃっていました。思いがけず沢山の方々から参加申し込みをいただき、なんせ土の下のお話、下にどれ位の大きさのどんな数のさつま芋が待っていてくれるのか、大人数の参加者の方々にいかにしたらスムーズに、安全に、楽しんで芋ほりをしてもらえるのか、我々担当幹事は準備をさせていただき中、ドキドキ続きでした！

班ごとに分かれて畑に到着し、蔓(つる)を切りマルチをはぎ取り、芋ほりの開始です。エコグループの方々が丹精を込めて育ててくださったさつま芋！鹿さんにも負けず、夏の暑さや水不足にもめげず、大きなさつま芋が沢山収穫できました。一抱えもあるような大きなさつま芋を掘り上げた子供たちの嬉しそうな顔、顔、顔。土に触れ、土と遊ぶ喜び一杯！

掘り出した芋の中で一番大きそうに見える芋、ユニークな形のしている芋、一番長そうに見える芋の蔓、各班でそれらをもってベースキャンプへもどってきました。

それからお芋コンテストの始まりです。蔓の

長さ、芋の重さをそれぞれ、一等、二等、三等、と決められ、金、銀、銅、参加賞のストラップが配られます。その後各班で選んだユニークなお芋を前に持ってきてもらって、なんて名前を付けたのか、なぜそれを選んだのかなどについて子供たちにプレゼンをしてもらい、最後に参加者全員の、拍手の大きさを千載会長に判断してもらって、一等、二等、三等を決めてもらいました。ちなみに、テレビ、お芋三兄弟、オタマジャクシ、変身芋、「へ」と「く」、雪だるまの名前が付けられました。子どもたちの柔らかい頭に脱帽です。

コンテストが終わり、焼き芋タイムです。ベースキャンプに戻ってから、焼き芋の良いにおいが気になって仕方なかった子供たち始め、参加者全員が焼き芋に舌鼓をうちました。閉会式の後、お芋のお土産を渡して終了！



初めてイベント幹事をさせていただき、イベントは全員で作りに上げていくものだという事を今更ながら学ばせていただきました。子どもたちが意気揚々と持って帰ったストラップ、焼き芋を包んだ紙袋。細かく、色々気を付けていただき感謝、感謝です。至らないことだらけではありましたが、おかげさまで無事終えることができました。ありがとうございました。



月例研修会

天川村・みたらい溪谷
洞川温泉散策

田中 善英

11月1日、あいにくの雨になりました。

しかし、集合場所の近鉄奈良駅前奈良商工会議所前にマイクロバスを止めて待っていると、雨にも負けず、定刻の8時までに参加者22名(女性7名、男性15名)全員が集めた。元氣よく8時にみたらい溪谷に向かって出発。

途中、9時45分に黒滝村道の駅で休憩。雨の為か人も少なく、屋台も準備中で、ちょっと残念。長い川合トンネルを過ぎて天川村川合に到着。そのまま通過して天川沿いの細い道を通



り、10時30分みたらい橋に到着。雨はまだ降っているが、まず、全員で集合写真をパチリ。



いざ、みたらい溪谷へ。急な階段を上る。周りは紅葉真っ盛りで、雨の中でも色鮮やか。吊り橋の哀伝橋は渡ると少しゆらゆら揺れるようで、揺れを感じながらみたらいの滝を眺める。紅葉と滝と大きな岩、あっちを見たりこっちを見たり、下を見たりと忙しい。傘をさしてどんどん奥へ進む。しかし、雨の為、光の滝で引き返すことになった。雨でなければ観音峰登山口休憩所まで行けたのに。少し残念ではあったが十分にみたらい溪谷の紅葉を満喫できたと思う。



約1時間、みたらい溪谷の紅葉を楽しみ、洞川温泉に移動、11時45分に龍泉寺に到着した。回りは紅葉真っ盛りで、雨の中でも色鮮やか。境内の龍の口と呼ばれる泉から湧き出る清水は澄んでいて、紅葉とのコントラストが素晴らしい。次は女人結界。女性は入れない門がある。その前で男だ、女だとワイワイ。それからゴロゴロ水を汲みに行き、水筒に入れたり、飲んでみたり。この水で作るとコーヒーやみそ汁が美味しくなるとのこと。それから、バスでお食事処に移動し、お店を借り切って約1時間、昼食を楽しんだ。14時20分、天川大辨財天社に到着。鳥居の前で全員集合。それから階段を上って拝殿に行き、音楽と芸能の神様に参拝した。また、近くにある来迎院へ行った。そして空海お手植えの大銀杏の大きさに感動した。最後に南北朝時代に置かれた南朝の黒木御所跡を見て、盛り沢山だった全行程を終了した。17時、予定通り奈良に到着。十分に紅葉を楽しめた一日でした。お疲れ様でした。

約1時間、みたらい溪谷の紅葉を楽しみ、洞川温泉に移動、11時45分に龍泉寺に到着した。回りは紅葉真っ盛りで、雨の中でも色鮮やか。境内の龍の口と呼ばれる泉から湧き出る清水は澄んでいて、紅葉とのコントラストが素晴らしい。次は女人結界。女性は入れない門がある。



その前で男だ、女だとワイワイ。それからゴロゴロ水を汲みに行き、水筒に入れたり、飲んでみたり。この水で作るとコーヒーやみそ汁が美味しくなるとのこと。それから、バスでお食事処に移動し、お店を借り切って約1時間、昼食を楽しんだ。14時20分、天川大辨財天社に到着。鳥居の前で全員集合。それから階段を上って拝殿に行き、音楽と芸能の神様に参拝した。また、近くにある来迎院へ行った。そして空海お手植えの大銀杏の大きさに感動した。最後に南北朝時代に置かれた南朝の黒木御所跡を見て、盛り沢山だった全行程を終了した。17時、予定通り奈良に到着。十分に紅葉を楽しめた一日でした。お疲れ様でした。



その前で男だ、女だとワイワイ。それからゴロゴロ水を汲みに行き、水筒に入れたり、飲んでみたり。この水で作るとコーヒーやみそ汁が美味しくなるとのこと。それから、バスでお食事



処に移動し、お店を借り切って約1時間、昼食を楽しんだ。14時20分、天川大辨財天社に到着。鳥居の前で全員集合。それから階段を上って拝殿に行き、音楽と芸能の神様に参拝した。



また、近くにある来迎院へ行った。そして空海お手植えの大銀杏の大きさに感動した。



最後に南北朝時代に置かれた南朝の黒木御所跡を見て、盛り沢山だった全行程を終了した。

17時、予定通り奈良に到着。十分に紅葉を楽しめた一日でした。お疲れ様でした。

「木々たちは涼しくなると！」

校庭自然観察教室

奈良市立佐保川小学校

鈴木 末一

秋晴れの10月24日(月)、奈良市立佐保川小学校校庭自然教室(学習支援)が開催され、当会から冨江、菊川、桜木、山本美の4名の会員が講師としてご活躍いただきました。

千載会長から当会の活動についての説明と4名の方々の紹介の後、3班に分かれてスタート。子どもたちは、昇降口前にある佐保川の森を起点として、運動場の外周に植栽されている木々⇒学校の南側を流れる佐保川の堤防にあるサクラや自生している「ウマノスズクサ」の順に観



察学習に取り組みました。本格的な秋の季節に合わせて実を付けている木、葉が紅葉しつつある木

など、実物で確かめながら、今まで気付かなかったり、疑問に思っていたことなど、色々な質問を子どもたちから講師に投げかけたり、ノートに記録したりしていました。

子どもたちの表情を見ていますと、今まで〈?〉に思っていたことが、少しずつ〈!〉になっていったように感じ取れました。

事前の打合せで教材の木々を選定。実や花などとともにパネルも準備し、それぞれの場所に配置するなど、教材の準備は万全でありました。

佐保川の森では、クスノキの説明を聞き、クヌギのドングリを観察するうち、形や大きさの違う別のドングリを見つけて、「これは何の木のものですか」とすばやく質問をする子もあり、時が経つにつれて、観察学習に引き込まれていきました。

先生たちによると、「ふだんの教室での様子と

は全く違う。こんなに活発に色々なものに興味や関心を寄せたり、疑問に思ったことは素早く質問するなど、子どもたちの隠された新しい一面を垣間見ることができました」とのこと。



さらに「講師の皆さんと子どもたちの間で交わされる会話を聞いてみると、「行って」「返って」「また行く」と

いうことが、意図的ではなく自然発生的に行われていることに、ふだんの学習指導のあり方について、大いに参考にしなければと強く感じましたし、貴重な経験を積ませていただきました」とのコメントをお寄せいただきました。

1コマ45分間の巡回指導で取り上げる教材となる木々が沢山あり、いずれの班も時間オーバーせざるを得なかった模様でした。諦めかけていた「ジャコウアゲハ」が、偶然にも飛来。子どもたちは、神秘的な珍蝶との出会いに歓声をあげていました。

3学期の来年1月に予定されている2回目の観察教室では、厳寒に耐えている木々たちの様子



子をどのよう
に受け止めて
くれるでしょ
うか、楽しみに
しています。

講師の方々
には、事前準備
から本番まで

ご苦労さまでした。

なお、当会が同校の学習支援活動に携わるようになったのは、当会が地域の各種活動団体で、私が学校運営協議会の一員でもあり、かねてより校長先生から社会人講師派遣について、依頼があったのに応え実現しました。

私の故郷

阿波 徳島



吉田 英子

私の故郷は、阿波の徳島です。明石海峡大橋を渡り淡路島を縦断して大鳴門橋、その下には大小の渦潮です。潮の流れの激しい春は見応えのある渦が見られます。大鳴門橋を通過すると木々の間に大塚美術館。一度訪れると何度でも見たくなり再三来られる方も多いと聞きます。



南に下ると松茂飛行場、県庁、西に行くと徳島駅に。北側にお城跡、南に椰子の並木、南国の風景を感じ、新町橋はメイン通りでお店が並んでいます。さらに進むと小高い山、眉山です。山頂にはパゴダ塔、市内を一望できます。

四国山脈に添って吉野川（四国三郎）が西から東に JR 徳島本線が川の南側を走り、半田駅までは両岸はお米、野菜の産地で、県外に送っています。かつて藍染が盛んで藍の栽培も広くされていたようですが、今では工房もありますがごく一部になっているようです。

剣山の山側になる地域で池田には清流と岩の美しい大歩危小歩危、祖谷の葛橋が名所になっています。また、弘法大師の霊場、四国八十八ヶ所巡りは一番札所霊山寺～二十三番札所薬王寺、これより先は高知県に。近年も自家用車、バス、バスツアーで参拝される方も多いと聞き

ます。

東は紀伊水道に面して小橋島より南へ漁業が盛んです。太平洋を望む日和佐は海岸線が美しく海亀の産卵で知られています。

さて、私のふるさととは奈良県の吉野のような感じのところですよ。石積の段々畑と林業で生計を立てていました。養蚕、葉タバコの栽培（阿波葉という良質のもの）一番下の葉は5～6cmもあり、薄く、ピースの材料になると聞いていました。村の中心部に住んでいましたので役場、郵便局、交番もあり、学校も小中は近く、不自由を感じず育ちました。母家は茅葺でその形は家族の自慢でした。大きな椋木があり、月夜にはムササビ、リスが飛び交い、川のせせらぎ、カジカが鳴きホタルが庭先まで飛び交い、川には小魚が群れをなし、季節季節の果物も豊富で心は豊かでした。それより鉄道駅までは朝は40分、帰りは30分と、今思い返すと“よくぞ”と思います。

卒業後、吹田歯科医院に勤め、身内であったためいろいろと花嫁修業に励み、41年結婚、長男出産を機に44年奈良にまいりました。平成に入り、両親を95歳で見送り、二人の子供も結婚、ゆっくり暮らそうと話していましたが、夫も亡くしてしまいました。そんな折、この会にお誘いをいただき感謝いたしております。毎週参加させていただくことがとても楽しみです。子供の頃を思い出す日が多くなったからかもしれません。少しはお役に立っているかと反省もしつつ元気なうちはお世話になります。よろしくお願ひします。





時間の共有

鈴木 末一

給食で 出るのが楽しみ 古代米

「さよむらさき」の稲刈りをした

20周年記念誌の「次世代との絆」のページで紹介した短歌である。作者は昨年、奈良市立佐保台小学校5年生として、ならやまの水田で田植え体験をした山添葵さん。朝日新聞全国版の「朝日歌壇」で、4人の選者のうち3人から推薦され、掲載された句である。

記念誌は「自然豊かな日本の原風景を取り戻すため、奈良・人と自然の会は『歴史的風土と自然環境に恵まれた里山を次世代へ』を理念にしています。この短歌が実証してくれたと言っても過言ではないでしょう」と紹介しています。

9月13日夕、記念誌の編集委員だった仲間から電話。受話器の向こうで興奮した声。「今日の朝日新聞の夕刊1面を読まれましたか」「山添さん一家の歌集についての記事がトップに取り上げられていますよ」という。受話器を置くや直ぐに新聞販売店へ走り、店先で紙面を開ける。

「ふうせんが 九つとんでいきました

ひきざんは いつもちょっとかなしい」

「家族 日常 つむぐ歌」

の大見出しと山添さん一家の写真が掲載され、6段抜きのトップ記事である。新聞の1面は、新聞の顔とも言われていて、当日の紙面で一番重要で大きなニュースが掲載される。つまり、トップ位置にあるのは、その日、新聞社おすすめの最重要ニュースやまとめ記事である。そのような役割を持つスペースを「山添さん一家の歌集」の話題が飾ったのである。

20周年記念誌の編集委員会が一家のことを知ったのは、長女葵さんが、佐保台小5年生であった昨年、田植えから収穫、そして、全校給食での黒米ご飯試食までの体験を短歌にして朝日新聞の朝日歌壇に投稿し入選したことから。

編集委員の一人、岡田安弘さんは記念誌の記事が物足らなかったのか、会報誌「ネイチャーなら」の今年3月号「字遊字感」に「胸騒ぎがする。ネット検索を試みた。母とともに朝日歌壇の常連だった。歌集『サラダ記念日』の俵万智さんのような、現代短歌の旗手に育つ予感がする」とまで書いている。

弟の聡介君も触発されて、投句している。いま3年生だが入選作が多い。5年生になって、ならやまの水田での約5カ月間の稲栽培体験学習から、時々感動を、どのように詠ってくれるだろうか。心待ちにしている。

朝日歌壇は朝日新聞社にとっては内輪の話であるが、入選作を中心にこの9月、家族による歌集として出版されたことが記者を記事化へと強く動かしたのだろう。

暗いニュースが多いご時世。心安らぐことの少ない生活を余儀なくされている。そんなご時世から脱却して、ほっと一息つくことのできる日常を取り戻したいと願っている人が多いはずである。

家族の本質は、時間を共有することの積み重ねであり、山添さん一家の短歌には、難しい言葉は見つからない。「普段の会話の中に自然と五七五がある」(母聖子さん)という。

選者の一人永田和宏氏の言葉を借りると「難しい言葉は使わず、普段の話し言葉で詠っているので、より新鮮に映ってくる。純朴な子ども目線で見えている今の時代を端的に表現している」。「歌の中に家族のその時の時間が残っていて、みんなで思い出すことができるというのは、すごく幸せなこと」。「家族への温かな視線、日常の気付き、人目にとまる親子の31文字」と評する。

ささやかでも、ならやまの水田や行事が、その舞台づくりや歌心を盛り上げるお手伝いができるとしたら、また、山添さん一家と私たちがその有意義な時間を少しでも共有できるとしたら望外の喜びである。

海外ボランティア活動体験記—4 パラグアイ(1997.4~2002.3)

木村 裕

私が海外ボランティアに応募したとき(1997年)、パソコンは「一太郎」の全盛期で、JICAの派遣前研修で初めてワードがあることを知りました。当時ワードはまだ黎明期で、教える側の先生も深くは知らないようで、ワードでの表づくりは難しいとか言って教えてもらえませんでした。

一太郎からワードへの転身は大正解でした。当初は戸惑いましたが、数年後にはパソコンソフトの主流となりました。日本にずっと居たならワードが使えるようになったかどうか疑問です。私の年代から上の方はこれを使える人が少ないのも事実ですから。

日本の家族(子供たち)との連絡は電話で出来るものの、時差と料金の点で郵便を使っていました。ポストはないので、毎度郵便局に手紙をどさっと運び込んで家族や友人に近況を知らせていました。日本からの手紙は個人への配達はないので派遣母体の現地のJICA事務所あてで受け取っていましたが、任期半ばでインターネット通信が出来るようになって便利になりました。

パラグアイの道路事情は悪く、数本の幹線道路のみは舗装されていましたが、あとの道は石を敷き詰めただけのデコボコ道で、クッションは最悪でした。おまけに大半の道は未舗装で、雨が降ればぬかるみに変わります。

また、道路の舗装が薄いので、バスやトラックが通過すると壊れやすく、雨水との協働作業で穴ボコが掘られてゆきます。補修工事はしているものの壊れる速度が速く、どこもかしこも危険いっぱいです。うわさ話によると、工事代金がきちんと支払われていないので、わざと手抜きをして補修工事で再度稼ぐとも言われています。

上水道網は市内全体に行き渡ってはいたようですが、給水管は老化? していて道路上に噴水がよく出現します。さらにジワジワと漏れだす漏水は日常茶飯事で、あちらこちらの道で水たまりができており、日本のように水道局がすぐにとんできて修理することはありません。そのせいか蛇口から出る水はきれいに見えても飲料には適していないと言われ、飲料水は大きな容器(10リットル)に入ったものを購入していました。しかし洗い物や洗濯はそのまま水道水を使っていましたので、毎日着ていた白い下着は帰国時にはすべて見事に黄ばんでしまいました。

下水道の整備は非常に遅れており、ほとんどに等しく、雨がザアッと降ればそこら中の雨水はそのまま道路に流れこんで川となります。我が家のマンションでも屋根に降った雨水は樋を伝って地上にあり、あとは一目散に前の道路に駆け込みます。道路に集合した雨水は川となって低い方へ低い方へと仲間を集め、ワッショイ! ワッショイ! と大騒ぎしながら大きな水路まで流れてゆきます。また雨が降るとすぐに道路が川となるので、エンコする車も少なくありません。ベテランは雨が降り出すとすぐに高台に避難し、水がひくのを待ちます(雨が止むとすぐに水もひく)。とにかく即席の川にはどこに穴があるか、石があるか分からず、泥水の中を足探りで歩くことになり、恐ろしいです。

田舎に行くと、道路が高く、周囲の牧場が低くなっているため、牧場内に流れ込む水で大きな池が出現し、景色が一変します。その中を牛の群れが文句も言わずジャブジャブと歩いています。我慢強いです!

また、ゴミは道に捨てるものと決めているかのようで、道路にはポリ袋、紙屑、ペットボトルなどが散乱しています。雨が降るとそのゴミたちは、雨水とともに即席の川(道路)に流れ込むので道路はきれいに掃除されます。この時とばかりゴミを捨てる人もいます。

Gallery ならやま



イラスト： ならやまのみーんな

岩崎 雅子



線画 興福寺南円堂不空羂索観音菩薩座像
境 寛



書 吉田 英子

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内 Part 1

ならやま・芋煮会のご案内

三瀬 英信

1. 日時：12月8日(木) 12時から
雨天の場合は15日(木)に順延
2. 場所：ならやまベースキャンプ
通常通りお弁当を持参ください。

新型コロナ第8波が懸念されています。今年も昨年同様に細やかな芋煮会と致します。

今年の里芋は昨年に続いてJA愛媛ブランドの“伊予美人”です。夏場の高温と乾燥の影響を心配していましたが、試し掘りでは良好な出来栄でした。

野菜はすべて“ならやま産”ですが、購入するお肉などは、昨今の物価上昇の折から、少しでも安く買えるようにと、買い物係が工夫されています。



炊事は賄いの皆さんと協力し、エコメンバー総出で行います。里芋

の皮おきは男性も慣れない手つきで頑張ります。全員で心を込めて作る“プレミアム芋煮”を味わっていただきたいと思います。



コロナはまだ油断できません。一人ひとりの注意が肝要です。芋煮会時の談笑時にはご注意くださいをお願いします。



新春初出式のご案内

- *餅つきと七草粥
- *10年継続会員記念植樹式

青木 幸子

1. 日時：1月5日(木) 9時～
2. 場所：ならやまベースキャンプ

ここ数年、コロナ禍で餅つきのない寂しい初出式でしたが、2023年は3年振りに白米と黒米のお餅を臼と杵で搗いて新年を祝いたと思います。年男・年女の方々をはじめ、力自慢の皆さんに搗いていただき、黄な粉とおろし大根をまぶして、みんなでコロナ撲滅を祈願して頂きましょう！

また、ならやまで採れた春の七草を使って七草粥作ります。お節料理、お屠蘇で疲れ気味の胃を春の七草で癒してください。



続いて10年継続会員の記念植樹式を行います。対象者は10名の方々です。昨年と同じ場所に「九尺藤」を植えていただく予定ですので、是非ご参加ください。

来る年も「奈良・人と自然の会」にとって「明るく・楽しく・無理をせず」良き年でありますように・・・。

行事案内 Part2



2023年度月例研修会のご案内

大神神社初詣と三輪山登拝

中井 弘

大神神社は大和国一之宮といわれ、日本最古の神社とされます。ご神体は記紀には三諸山などと記される三輪山そのものであり、本殿は無いが、三輪山と拝殿の間には結界として「三ツ鳥居」が設けられています。このような直接「山」に祈りを捧げるという形態は、神社社殿ができて以前の原初の神祀りの様を今に伝えており、我が国最古の神社と言われる所以です。

ご祭神は頂上の奥津磐座に鎮まる大物主大神で、中腹には大己貴神、麓には少彦名神が鎮まっておられます。拝殿は寛文四年(1664)四代将軍徳川家綱が再建したもので重要文化財に指定されています。

今年も拝殿に昇殿させていただき、神官の厳粛なお祓いを受け「奈良・人と自然の会」の行事の安全と会員の皆様の健勝を祈願いたします。

登拝するご神体の「三輪山」は(467m)往復2時間の距離であり希望者をご案内します。

登拝されない方は天照大神が祭神の元伊勢とされる檜原神社(往復1時間半)をご案内します。

昼は麓の三輪ソーメン「福寿堂」にて昼食とし、3時ごろ解散となります。

実施要領

日時：令和5年1月10日(火)雨天実施

集合場所：JR三輪駅前 9:10集合

持ち物：飲料 雨具 ストック

交通機関：①近鉄西大寺発(8:05)天理にてJR乗換(8:51)-三輪駅(9:03)

②JR奈良発(8:37)-三輪着(9:03)

申込み：富井

幹事：富井・福田・中井

募集人員：20数名先着

新春講演会・懇親会(予告)

新年を迎えての新春講演会は京都大学フィールド科学教育研究センターの徳地直子教授をお迎えして開催します。今春、お願していたご講演がコロナ禍のために中止となり、一年越しにようやく実現することになります。

ご講演のテーマは

「里山整備のために考えていること」

～市民科学と里山～

15年を超える活動の結果、「ならやま」は里山の原風景を取り戻しました。このユートピアとも見える「ならやま」を保全し次の世代に引き継ぐにはどうしたらいいかを考える機会にできればと思います。

講演会の後、先生を囲んだ懇親会も予定していますので、ふるってご参加ください。

◆徳地直子教授のプロフィール

京都大学農学部卒。同大学院農学研究科博士課程修了。同林学科森林生態学研究室・フィールドセンターにて長期にわたるモニタリング調査と森林生態系の窒素循環メカニズムの解明に取り組む。改組により2003年にフィールド科学教育研究センターが発足。森里海連環に基づいた地域との連携に関する研究を開始。

◆講演会懇親会概要

1. 日時：令和5年1月14日(土曜日)

(講演会) 13時40分～15時10分

(懇親会) 16時00分～18時00分

2. 会場

(講演会) 奈良市中部公民館

・近鉄奈良駅から南東へ徒歩7分

(懇親会) リガーレ春日野

・近鉄奈良駅より送迎バスで移動

・バス乗場：近鉄奈良駅交番裏 15:30発

3. 懇親会の参加申込み

申込み先：田中善英

2022年11月度 幹事会報告



「奈良県で一番高い山は？」と聞かれたら、奈良に住む人なら「八経ヶ岳(はっきょうがたけ)」と答えて欲しいですね。「近畿の

最高峰」と付け加えてくれたら完璧です。山歩きする人にとっては周知のことですが、一般にはそうではないようです。八経ヶ岳は大峰山系の標高1915mの山です。7月上旬には、頂上周辺に自生する国指定の天然記念物オオヤマレンゲが咲きます。純白で清らかな花は、私を引き付ける花の一つです。長年の念願であった登山計画が、今年の7月4日と決まり体調を整えました。しかし、当日は大雨で山仲間と断念しました。来年、再挑戦を山仲間と決めました。毎日のラジオ体操、一日一万歩を目標にして体調を維持したい。

私は、晴れ男と自認しており、来年こそ念願が達成できると期待しています。

1月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木)
 - 5日 初出式&10年継続会員記念植樹式
 - 10日(火) 三輪山初登拝
 - 14日(土) 新春講演会&懇親会

*** 奈良学クイズ11月号解答 ***

問1 黒塚古墳
 問2 画文帯神獸鏡・三角縁神獸鏡
 問3 A 1面 B 33面
 問4 前方後円墳

- I. 総務部より
 - ・会員動向:149名(10/1付け退会処理3名)
- II. 活動・行事関係
 - ・11/18 蕎麦打ち研修会再開
 - ・12/8 進路ガイダンス参加
 - *ならやまプロジェクト関係
 - ・ドローンによる空撮予定(11/1~3/20)
 - ・1/5 初出式(餅つき・七草粥)
 - 10年継続会員10名
 - 記念植樹は昨年と同じ 藤を植樹。
 - ・1/10 三輪山登拝
 - ・1/14 新春講演会 徳地先生
 - 懇親会 リガーレ春日野
 - ・賄いについて 当面は現状維持とするが種々意見もあり検討する。
- III. 企画、助成金事業案件
 - ・林野庁助成 竹林整備:11月~2月で実施。
 - ・その他各助成金事業は順調に進捗中。
- IV 喫緊、提案事項
 - ・来年度以降の活動計画の検討
 - 2月には原案を取りまとめたい。各Gは年内に議論して1/24ならやまプロジェクト報告会(サブリーダーその他の参加も歓迎)を開催し全体で各Gの考え方を共有する場としたい。
 - ・来年度総会で幹事4名を補選すべく候補者を募る。
- V 広報関係
 - ・ネイチャーなら12月号編集内容説明
- VI 報告・連絡事項、その他
 - ・月例研修会:12/6 春日奥山石仏巡りと紅葉
 - ・自然教室:11/22 奈良公園紅葉狩り
 - 1/16 佐保川小校庭の植物観察会
 - ・のらの会:11/21 (オープン参加)
 - 次回定例幹事会 12/27(火)14:00~はぐくみセンターにて

発行:奈良・人と自然の会
 URL: <http://www.naranature.com>
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員:青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真:佐保台小学校5年生が力強く踊ると、会員から盛大な拍手が送られました。